

平成25年度 名古屋市立大学市民公開講座 家庭で活用できる感染予防の基礎知識 ～標準予防策～

名古屋市立大学看護学部・感染予防看護学：

矢野久子、脇本寛子

I はじめに

平成25年度 名古屋市立大学市民公開講座「家庭で活用できる感染予防の基礎知識～標準予防策～」は、感染予防看護学領域（教授 矢野久子、准教授 脇本寛子、元助教 長尾多美子）が担当させて頂いた。この概要を報告する。

II 公開講座の実施状況

平成25年10月12日（土）、快晴。参加者は44人であった。看護学部長・山本喜通教授、看護実践研究センター長・明石恵子教授のご挨拶の後、開始した。

1) 講義

看護学部棟 3階308講義室で行った。

まず、脇本寛子准教授が、感染予防の基本である標準予防策¹⁾について説明した。これは、汗を除くすべての血液、体液、分泌物、排泄物、傷のある皮膚、粘膜には、感染性の病原体が存在するとして、“すべて”の人に対して適用するものである。具体的には、手指衛生、マスク・ガウン・手袋などの个人防护具を上手に使用して感染経路を遮断する技術である。今回は、ノロウイルス感染症を想定して、厚生労働省ノロウイルスQ&A²⁾に基づいて作成した資料を提示した。

続いて、長尾多美子元助教が、マスクなどの个人防护具の着脱を実演し、引き続き参加者全員に実施して頂いた。杖を使用している参加者もいらしたが、「自分でやってみないとわからないから」と椅子に座って、个人防护具の着脱を実践された。

講義・実演時には、手話通訳・要約筆記が併せて提供された。

2) 演習

看護学部棟 5階502・503・505実習室に移動して演習を行った。

参加者全員にグリッターバッグ[®]を用いて、手指衛生をし損なった部位を視覚的に確認して頂いた。「十分に洗ったつもりだったが、指先など洗い残した部分が多く、驚いた」などの感想を頂いた。

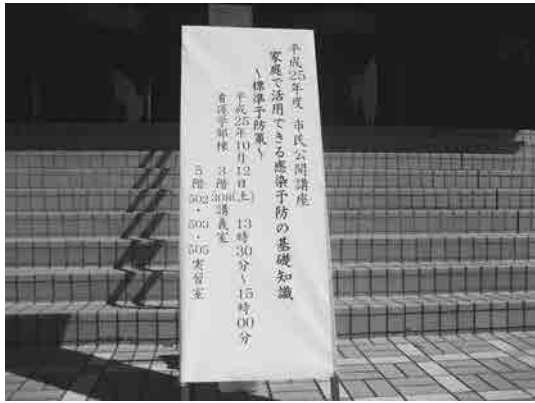
次いで、2グループに分かれて頂き、ノロウイルス感染症を想定した汚物処理のデモンストレーションを行った。模擬汚物は、カップラーメンに片栗粉を混ぜて作成した。デモンストレーションの後には、数名の参加者の方に実践して頂いた。家庭でも実践できるように、汚物処理に関する物品や手順などについて、さまざまなご質問を頂いた。

III おわりに

感染経路を遮断する標準予防策は、感染予防の基本的な技術であり、誰もが実践できることが重要である。熱心にご参加頂いた市民の皆様にも、この場を借りて深謝申し上げます。

引用文献

- 1) CDC: Guideline for Isolation Precautions: Preventing Transmission of Infectious Agents in Healthcare Settings, 2007.
www.cdc.gov/hicpac/pdf/isolation/isolation2007.pdf 2014.9.23.
- 2) 厚生労働省、ノロウイルスに関するQ&A、2013.



看護学部棟前、市民公開講座の看板



ご挨拶する看護学部長 山本喜通教授



[講義室] 標準予防策に関する講義 (脇本寛子准教授)



[講義室] 個人防護具の着脱の実際 (長尾多美子元助教)



手話通訳・要約筆記の様子



[演習室] ノロウイルス感染症を想定した汚物処理(デモンストレーション)



[演習室] ノロウイルス感染症を想定した汚物処理(デモンストレーション)



[演習室] ノロウイルス感染症を想定した汚物処理(デモンストレーション)



[演習室] 参加者の実践の様子



[演習室] 質疑応答